

# 北海道 教区時報

第238号

発行所  
札幌市中央区北3条西19丁目  
(郵便番号 060-0003)  
北海道教区教務所  
電話 011-611-9623  
編集所 北海道教区教務所  
発行人 中尾了信

北海道教区御同朋の社会を  
めざす運動(実践運動)活動報告

### 【常任委員会】

今年度、常任委員会を5回開催いたしました。各部の報告に加え、来年度よりの宗派重点プロジェクト(「貧困の克服に向けて」Dān a for World Peace)についても協議を重ねました。

### 【重点プロジェクト実行部会】

今年度の事業は「保養事業」「現地学習会」「保養の相談会への出席」を行いました。夏の保養では



5家族16名、冬の保養では6家族16名の方々にご参加いただきました。この保養はリピーターも多いのですが、相談会への出席による新規の参加者も多くいらつしました。未だに放射線による被害がある中で、北海道の自然と食を子どもに満喫させてあげられたことを喜んでいました。

また、今年度は現地学習会に併せて、ほつこりプロジェクト参加者同窓会を開催し、これまで参加された方々に案内状を出し、47名のご参加をいただき、現在の復興状況や今後も保養を継続していただきたいなど多くの声を聴かせていただきました。

### 【僧侶研修部会】

今年度は、Aブロック函館組、Bブロック宗谷組、Cブロック釧路組で僧侶研修プログラムが開催されました。

この研修会は「葬儀について」をテーマとして5ヶ年かけて行われる研修会です。本年度は3年目に当たり、布教部門は「自死遺族への通夜法話」、教学部門は「現生正定聚」、法式部門は「葬儀における荘厳について」をテーマに開催されました。

自死遺族への通夜法話については、何も話せなくなってしまう中で、浄土真宗の教えをいかに伝えていくかを話し合い法座や自死関連の書籍などを通して学ばせていただきました。また、平素の葬儀において、私たち自身が荘厳の一つとして丁寧なお勤めや作法を行うことで、遺族の方々が安心して葬儀を終えることができるのではないかとのご教授もいただきました。

来年度は、A

ブロック胆振組、Bブロック空知北組、Cブロック根室組での開催となりますので、是非ご参加下さい。



### 【門信徒教化部会】

今年度は12月8日(金)に「御堂演奏会」が実施されました。この御堂演奏会はまず、歌の練習を通してお寺に多くの方々が集えるように、また、仏教讃歌を通しておみのに遇っていかうと企画されたものです。当日は、400名を超える方々に全道よりお集まりいただき、山本徹浄さん(空知北組常楽寺住職)の指揮のもと札幌別院に歌声が響き渡りました。歌の合間には、ご法話も入れ、合唱と法話という新たなスタイルでの演奏会となりました。



【社会部会】

今年度は、昨年に引き続き札幌龍谷高校1年生を対象に「いのちの授業」と公開講座「いのちの終わりを見つめあう」を開催いたしました。「いのちの授業」では、「いのちを大切に」とは何を大切にするのかという投げかけから、いのちが私まで繋がってきたことや今も多くいのちを支えられているということ、朗読塾「チームいちばん星」の歌と朗読を通して授業を行いました。

公開講座では、札幌でご活躍の山田富美子さん(NPO法人「市民と共に創るホスピスケアの会」副代表理事)と佐々木墨さん(後志組照覚寺住職)の対談と、岐阜県大垣市の沼口諭さん(真宗大谷派僧侶・沼口医院院長)の講演を行いました。対談では、がんの宣告を



された方は周りに言い出せない中の苦しみがあることや、若い世代の方々の支援の話を活動を通してしてくださいました。また、講演ではビハーラ僧とともに、患者さんに向き合う先生のお話を聞くことができました。



【寺院活動支援部会】

今年度は、1月10日(水)〜11日(木)にかけて本願寺小樽別院を会場に寺院子弟交流会を参加者7名にて開催いたしました。この交流会は、小学4年生以上を対象に寺院子弟の交流を図るために開催しているものです。今年はおルゴールづくりやバイキングでの夕食、また、小樽別院の大きなお内陣の説明などもいただきました。また、御正忌報恩講中であつたこともあり、報恩講についても勉強しました。

また、移動教務所の要項を組長事務所へ送付いたしました。各組で抱える課題をお聞きし、その方を策を教区にて検討して参りますの



では是非申請ください。

【若手僧侶のための御同朋 学習プログラム】

このプログラムは2ヶ年4回実施しました。今年度は第3回第4回を実施し、各15名の参加をいただきました。第3回目は「身の回りにある社会問題」として、講師に上田紀行さん(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院長)と、松本智量さん(東京教区多摩組延立寺住職)を講師としてお迎えし開催しました。上田先生は「仏教は

何を自由にするのか?」として本音を本音として捉えられない日本社会のなかで、僧侶として教えを広めていくうえで、「言っていることそのものに自分なるうとしているのか」と厳しい指摘を受けました。また、松本先生は「あなたの課題はなんですか?」として、「レットテルは触れあうことで付け替えるべきだが、それを張り替える機会を作ろうとしない私がいるのではないのか」また、「『自』『他』 共に『みんな仲良くしましよう』という話ではない。『他』は敵である。自分にとつての都合の悪い人のことである。現実には私たちはそういう所にかざるを得ない。」と講義いただきました。

第4回目は「私にとつての御同朋とは?」をテーマに北海道における差別事件について、また、満井秀城さん(総合研究所副所長)に「御同朋の社会の実践のために」としてご講義をいただきました。満井先生は「教団として最大公約数の運動理論は教学だと思つ」としたうえで、差別に対して①教学上の課題として位置づけることによつて教団全体の課題となる。②教学上の課題となる時点で、「自分とは関係ない」とはならない。③差別が起こつてからその場所、



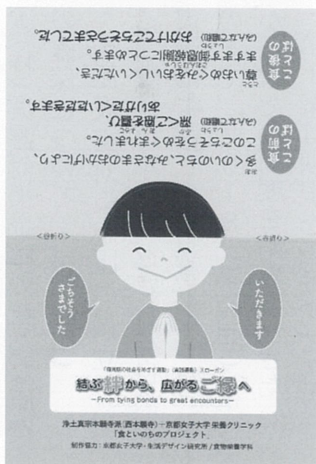
時代などということとは関係なく、  
 教学上とすることによって逃げる  
 ことができない。」と指摘されま  
 した。  
 このプログラムでは、参加者同  
 士の話し合いを中心に置き、各  
 回ともに活発な意見が出されま  
 した。本音で語り合っていく中で差  
 別の本質やこの学習会の意義を参  
 加者自身が見出していただけたこ

とも思います。

【子ども・若者ご縁づくり】

今年度は、各教化団体の総会に  
 て子ども・若者ご縁づくりのリー  
 フレットを用いて活動の重要性を  
 説明いたしました。子ども・若者  
 ご縁づくりはお寺とのご縁が薄く  
 なる中、子ども・若者のうちから  
 お寺とのご縁を作り、繋げて、深  
 めていく活動です。今回は『食事  
 の言葉カード』を用いて僧侶の  
 方々へは法事などで食事が出され  
 た場合にカードを活用していただ  
 き、ご門徒へは家庭でこの言葉の  
 意味について話し合っていただ  
 けとお願いをしました。尚、「食  
 事のことばカード」は教務所もし  
 くは、宗派重点プロジェクト推  
 進室にご連絡いただければ、各寺院  
 へ郵送いたします。

また、サポータ協議会として、  
 道内宗門校3校の宗教科の先生を  
 お呼びし若寺族婦人・若婦人との  
 合同研修会を開催しました。宗教  
 の授業では実際に1年生から3年  
 生の授業を各先生方に行っていた  
 だき、そのあとの協議会では、「宗  
 門校の生徒は浄土真宗に帰依する  
 のか?」「他宗もいる中での難し  
 さは?」など多くの質問が先生方  
 に寄せられました。先生方は「浄  
 土真宗に帰依させようとは思って

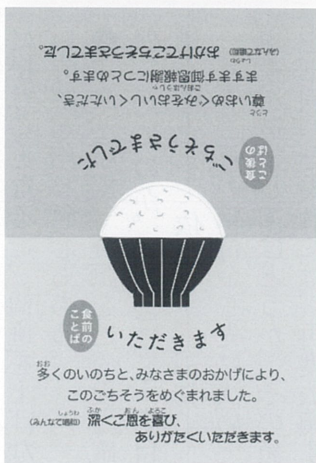


いないし、無理がある。しかし、  
 宗教の時間はなにも否定せず、簡  
 易な言葉で真宗の教えが伝わるよ  
 うにしながら授業に臨んでいる」  
 とお答えいただきました。  
 また、若寺族婦人・若婦人の方々  
 は国際中医薬膳師の野村洋子さん  
 に身近な食材で美味しく作る薬膳

料理を学びました。

【連研のための研修会】

内田正祥先生をお呼びしての研  
 修会の予定でしたが、体調不良の  
 ため急遽林川涉さん（北見東組秀  
 岳寺住職）に講師をいただいたて1  
 月17日（水）に開催しました。まず、  
 林川さんは12月7日から8日に宗  
 派にて開催された「教区連研事務  
 担当者・代表者協議会」へ代表者  
 として出向したため、現在の宗派  
 の連研推進現況を報告いただきま  
 した。次に全国的に連研の必要性  
 や門推養成の意味が理解されてい  
 ないことを踏まえ、それらの「良  
 さ」を引き出す話し合いへと移り  
 ました。連研に参加した喜びなど  
 から、「改めて門徒とは、僧侶と  
 は何かを確認できる場、それが連  
 研ではないか。」また、「連研開催  
 の目的を多面で捉えることの必要  
 性」などの意見が出されました。



## 公聴会報告

先般、2017（平成29）年

9月1日（金）教化センター札幌別院本堂並びにホールにて、伝灯奉告法要御満座の御消息披露総局巡回並びに2017年度公聴会が開催されました。

宗派より山階照雄総務、岡崎秀磨総合研究所上級研究員、尾井貴童総合企画室長、佐藤浩紹所務部課長、川井周裕災害対策賛事、特命布教使として苅谷光影さんにご出向いただきました。

総務によるご消息披露の後、苅谷布教使よりご議題に『教行証文類』総序の文をいただき、「念仏者の生き方」についてお話しをいただきました。苅谷さんは「私自身がお念仏を喜ぶ生活をしているか」について味わい、特に「改めて原点にかえる」ということについて、亡き祖母の言葉を紹介し、「たった一人でもいいからお念仏申す人」との思いを胸に刻み、あくまでも「仏法を聞く座を貫いた親鸞聖人の歩まれた道を我が道といただくことが大事ではないか」とお話いただきました。その後、ホールに会場を移し公聴会が開催されました。

公聴会ではまず岡崎研究員より『ご親教「念仏者の生き方」に学ぶ』についての講義がありました。ご親教を7節に分け「自己中心性」を抱える私たちの救いと現実、生活実践を考え、特に「聞法によって変えられていく私たち」という点に注目し、「大乘仏教の原点・すなわち他者への視線と想い」を共有することが大事なのではないかと提言をいただきました。また『他者への悲しみを共有する』というところは、すなわち『阿弥陀如来の』おこころにかなう生き方』であるという言葉が羅列されている。ここが『私たちの行動の規範』たり得るものであり、『努力目標』となるものである。」と

のご教授をいただきました。次に、①伝灯奉告法要について②「平和に関する論点整理」をテーマとする公聴会の意見集約について報告がありました。そして協議事項として

①(特)災害対策金庫の新たな原資の確保について

②「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクト改定について

③10年、20年後の日本社会で求められる僧侶像・寺院像について協議を行いました。

①(特)災害対策金庫の新たな原資の確保について(宗派説明)

・宗派災害対策金庫の積立金が、ここ数年毎年繰り返される自然災害等によって、資金減となった。その上で、2018（平成30）年度から新たな制度を始めて行きたい。

・第1案は期限を設けずに各寺院に依頼し、金庫の充実を図るもの。

・第2案は10年間と期限を設けて依頼するもの。この場合、直近で大規模災害が行った場合には、その時点で金庫が枯渇することも考えられる。

・いずれも賦課金として全寺院に依頼するため、賦課金規定が変更される。

## 出席者意見(一部抜粋)

●原子力災害について、各種支援を継続したので、宗派としての助成も継続してほしい。

●代務を住職が三ヶ寺している。継続が難しい中で寺院負担が三ヶ寺三万円となると厳しい。門徒戸数を算定基準にする等の工夫はできないのか。

●提案の1と2の違いは10年間の期限があるかどうか、ということか。案1の賦課金告知額に4%を掛けた額で調整するのが実用的であると考え。第2種の僧班点数

に掛けるとなると、僧班を上げない寺院が出る懸念もある。

●宗派として、資源をどの程度確保したいのか。まずはそこを目標金額として依頼してはどうか。一ヶ寺ごとの給付金を先に決めて規模を策定してはどうか。その額を下回った場合には、再度依頼する。目標額を達成した場合は、依頼はしないというような柔軟性をもったものにしてはどうか。

●保険による「裏打ち」はプラニがやっている。3年ごとの見直しとなると、宗派としてずっとやっていくと言うことが可能なかどうか。最初は50億円という案も出していた。南海トラフ地震への事前対応が協議初期にあったが、不透明であるのは良くないので期限を決めない方がよい。

## 【宗派回答】

不公平が生じないように努めることは、最も大事なことである。田舎且つ過疎化が進んでいる地域にあっても、建物規模の大きい寺院も多い。一律700万円程度の見舞金を渡すことが重要だと思っている。「寺じまいをする資金もない」という悲痛な声も聞く。あくまで宗派としては今回は一律見舞金としたいと考えている。「賦

課」というのは、一律になる。「特別賦課金」という考え方もある。期限を決めて支出使途を限定していくというやり方である。

1案と2案は期限を設けるかどうかの違いである。目標額を決めていくことは大事なことがある。但し、今回に関しては「将来に向かつて長く継続していくことを主」としたものである。3千800万円という規模で足りなくなる懸念もあつたので、今のところは将来的なことを踏まえて7千600万円〜1億円という規模とした。目標としては、50億円としたが、現在は特別会計に37億円の資金がある。10年間で各寺院から収納し、さらに雑収と併せて50億円と考えている。どちらにしても、大きな災害があつても、無条件の見舞いとしてお渡しする金額を確保することにある。

②「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）総合基本計画・重点プロジェクト改定について（宗派説明）

・運動根拠となるものを、ご親教『念仏者の生き方』と『伝灯奉告法要御満座の消息』に改める。  
・スローガンは前年までを踏襲する

・「重点プロジェクト」の推進期間を役職任期との整合性を図るため変更する。（一期三年間を改め、次期を二年間、以後四年間とする）  
・次期「重点プロジェクト」は宗門全体の実践目標を提示する。  
・これを、今年度中に中央委員会で決定する。

出席者意見（一部抜粋）

●新たに宗派が定め、全国的に進めることは結構だ。但し、災害支援は宗派として継続してほしい。

●今、保育士の資格が無くても3人までの子どもを保育できるという「家庭的保育」という国の制度がある。これは「お寺が子どもの居場所になる」「親のよりどころ」となる。また、国や町からの助成を受けられる制度であり、待機児童対策というものではなく、過疎対策の可能性もあり、過疎地域にあつても「子どもの居場所」となるため、お寺の新たなあり方としての可能性を秘めているが宗派として広報等できないか？

●宗派から早く教区に示して欲しい。また、提案は大枠にしてもらい、具体的には教区でどういう進め方がいいのかという、議論の余地を残して欲しい。

【宗派回答】

「災害支援」に関しては、各教区の意見も聞かねばならない。「家庭的保育」は良い試みだと思うが、即宗派として「やりましょう」というよびかけにはならないため、重プロの各教区の取り組みとして、具体的取り組みとして紹介させていただけだと思う。来年度計画は、11月中旬に中央委員会で協議する、というスケジュールである。

③10年、20年後の日本社会で求められる僧侶像・寺院像について（宗派説明）

・答申書をもとに、育成体系（新たな研修会づくり）に資する。

出席者意見（一部抜粋）

●「一緒性」については、唐突に出てきた言葉に見える。近年のLGBTのような議論において、一人ひとり事情がことなるため、一緒性という言葉でひとくくりに出るのか。言葉としてどのようなものがあるか説明をいただきたい。

●「人物像」については共感できるものが多い。宗門内で育成する上で「画一的にこういう僧侶でなければならぬ」というものであれば反対する。多様性の担保も必

要である。

●どこまでも個人主義である現代社会への迎合的教育が重要だと感じている。私がどう真実法に出会っていかか、という僧侶を育てていくときに、どのような育成プログラムを組むかが課題だ。

【宗派回答】

「一緒性」については、新しい言葉を使えば即批判される面が必ずあり、そういう点では反省している。宗門教学会議の中で、丘山所長は「浄土真宗の特徴は何か？」という答えとして、「一緒に」という「誰かと共に」とお答えになった。大乘仏教では「誰かと共に」となるため提案させていた。10年後、20年後にこういう言葉をもって、伝えたい、議論していただきたいという狙いがあつたと聞いている。

④その他

●「教師資格更新制」ということが答申されたと聞いているが、現在どうなっているか。

↓答申書で「必要性あり」ということなので、決定的事項では無く意見を聴取し検討中である。

以上

## 教化団体報告

### 【少年連盟】

5月17日(水)に「第50回少年連盟指導者研修会」が教化センター札幌別院にて参加者30名にて「子どもをデザイン みんなが集まる楽しいお寺」をテーマとして開催されました。

まず、NPO法人全国てらこやネットワークの大西克幸さんより「地域総がかりの教育プロジェクト」と題してご講演いただきました。

次に、石田慶嗣さん(上川南組慶誠寺住職)と朝倉恵昌さん(胆振組真宗寺)に子ども・若者ご縁づくりの実践として、各寺院の活動について実践報告がありました。

### 【仏教青年会】

11月26日(土)～27日(日)にかけて、本願寺帯広別院を会場に「第10回北海道教区真宗青年の集い」が開催されました。

テーマを「楽しくなくっちゃお寺ぢゃない」とし、参加者23名にて開催されました。この大会は2年に1度開催されており、この度は、全国大会でも実行部員でご活躍いただいた会員より、是非帯広で行いたいと言う声が挙がり、開

催に至りました。

まずテーマをもとに水野正幸さん(本願寺派布教使・釧路組常龍寺)よりお寺の可能性についてお話しいただき、夜には交流会として一般の方を含む11名もご参加いただき、会員共々交流を深めました。交流会の第2部では北海道のみならず全国でご活躍のDJ TSYAさんによるクラブナイトにて全員で盛り上がりました。2日目は全員で宗祖讃仰作法音楽法要の練習を行い、閉会式にて全員でお勤めを行いました。

本願寺帯広別院の職員並びにごえんクラブの皆様などたくさんのご協力により開催できた大会となりました。

### 【仏教壮年会】

本年度は、総会時に研修会を行い、打本厚史さん(本願寺派布教使・上川南組専証寺住職)に「仏教徒という生き方」をテーマにご法話をいただきました。打本さんには東日本大震災より7回忌を迎え毎年ボランティアに行っている中での経験などからお話しをいただきました。

また、9月2日(土)には、トクネットホール仙台(仙台市民会館)にて、「第22回全国仏教壮年東

北大大会」が開催されました。全国

から1400名を超える方々にお集まりいただき北海道からも77名の参加がありました。北海道の有志の皆さんは前日に専能寺にお参りして、その時の状況などもお聞かせいただき、被害の大きさ、今なお癒えぬ傷などを感じ大会に参加しました。大会の講演では東日本大震災で津波により被災された足利一之さん(東北教区 宮城組 専能寺 住職)のお話しがありました。足利さんはお寺の復興が地域の復興に繋がると総代や役員と協力して6年間走ってこられたとお話し下さいました。

北海道教区では2018(平成30)年5月12日(土)～13日(日)に紋別オホーツクパレスにて「第15回仏教壮年研修大会」が開催されますので、是非ご参加下さい。

### 【門徒総代会】

本年度はAブロック門徒総代会総会・研修会が7月11日(火)～12日(水)札幌パークホテルにて開催されました。講師に山本成樹さん(あそかビハラー病院勤務・ビハラー僧)をお迎えして「出遇う世界」から「出会う世界」へ

終末期医療現場のビハラー僧侶の関わりくをテーマとして開催され

ました。

Bブロック門徒総代会総会・研修会は7月12日(水)～13日(木)に芦別温泉スターライトホテルにて、丘山願海さん(浄土真宗本願寺派総合研究所所長)、柴田宣広さん(東北教区福島北組常稱寺)をお迎えして、「これからのお寺」「東日本大震災から6年を迎えて」をテーマに開催されました。

Cブロック門徒総代会総会・研修会は9月28日(木)～29日(金)に十勝川温泉ホテル太平洋にて、本多静芳(東京教区中組万行寺、武蔵野大学元教授)を講師にお迎えして「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」～心を育てる～門徒総代としての自覚くをテーマとして開催いたしました。

また、常任幹事研修会として、3月15日(木)に教区実践運動副委員長亀井義昭さん(上川北組極楽寺住職)を講師としてお迎えし「御同朋の社会」の実現のために門徒として、総代として何を為すべきか」のテーマにて研修を行いました。



# 第31回全道仏教 婦人大会開催

北海道教区仏教婦人会連盟（中田知佳子会長）は6月27日（火）に、たきかわ文化センターにて、『第31回全道仏教婦人大会』を開催しました。

今回は空知北組（小林義教組長）担当にて『ささえつつ・ささえられつつ』をテーマにご門主様ご臨席のもと930人が集まり開催されました。

開会式前のオープニングセレモニーでは、空知北組の仏教婦人会の方々による合唱の中、各組仏教婦人代表が献花を行い、荘厳が整えられていくなど、参加型のセレモニーでした。

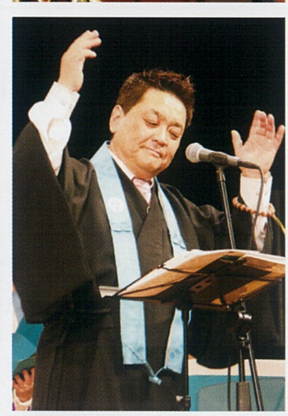
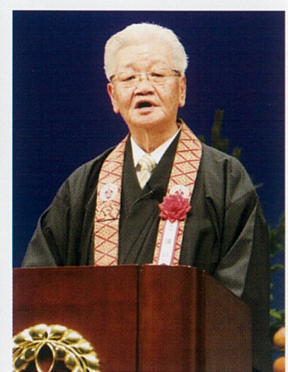
開会式では、組内女性僧侶が讃嘆衆として音楽法要・重誓偈作法をお勤めし、ご門主様からもご挨拶をいただきました。

記念講演は布教使の谷川弘顕さん（兵庫教区神戸湊組高松寺）が「ささえつつ・ささえられつつ」をテーマにお話し下さいました。谷川先生は「今の私の有り様をお念仏に問い返していくことが大切です。阿弥陀さまの大いなるはた

らきと願いの中に、お互いが支えられつつ、いのちが響きあうのがお念仏の世界」とお話し下さいました。講演の最後には「ささえつつ・ささえられつつ・南無阿弥陀仏」と全員で復唱しました。

次に、山本徹浄さん（空知北組常楽寺住職）の指導のもと、空知北組の合唱団と参加者が共に「親鸞聖人のことば」などの朗読と仏教讃歌を歌い会場が一つとなりました。

空知北組の皆様におかれましては、記念品をはじめ、多くの心のこもった大会を開催していただきましたこと御礼申し上げます。



## 2018(平成30)年度北海道教区得度習礼講習会

2015(平成27)年4月1日より得度習礼を受けようとする方は、事前の「得度習礼講習会」受講が義務化されました。

2018(平成30)年度は下記日程にて開催いたしますので、得度希望される方は早めの受講をお薦めいたします。

### 期 日

第1回 2018(平成30)年6月16日(土)～17日(日)

※8月以降の得度を受講いただけます

第2回 2018(平成30)年12月5日(水)～6日(木)

※来年2月以降の得度を受講いただけます

第3回 2019(平成31)年2月23日(土)～24日(日)

※来年6月以降の得度を受講いただけます

### 会 場

教化センター札幌別院

(札幌市中央区北3条西19丁目2-1)

### 受講料

15,000円(講習会費)

### 対 象

満15歳以上で得度習礼を受けようとする者

### 得度習礼講習会規定(平成26年宗則第17号)

第7条 (講習会の免除)

第1号 真宗十派よりの転入僧侶対象

既に僧籍を持っており、最低限の行儀作法は習得している。

本派の作法、勤行に関しては習礼中、他の習礼生とは別カリキュラムにて講義を行っている。

第2号 仏教学院

単に「免除」ではなく、学院の講義中に講習会の内容を履修するという条件のもと、改めて教区や宗務所開催の講習会に参加する必要はない。

※仏教学院生(中央、東京、広島、行信)のみ免除となり、宗門関係学校(龍谷大学など)では免除になりません。通信教育も免除の対象になりませんのでご注意ください。

※所属教区もしくは現住所のある教区での受講が可能です。



# 届けてますか？

「責任役員任命申請書」／「門徒総代届」

宗派提出書類の中で最も重要な書類の一つが「門徒総代届」と「責任役員任命申請書」です。各寺院の寺則に必ずそれぞれの人数が定められており、4年に1度の届け出が必要となります。

この申請書が届け出ていなければ、「住職任命申請書」や「寺有財産処分申請書」などの書類が提出できなくなります。

各寺院においては、その都度変更されていることとは存じますが、4年に1度のご提出の程よろしくお願いいたします。

## 毎回冥加金がかかるの？

「責任役員任命申請書」については、任期満了から1年以内で、再任の場合は冥加金は必要ありません。また「門徒総代届」は冥加金が必要ありません。

## 必ず任期ごとに申請しなければならないのですか？

責任役員及び門徒総代は、本山に届出をしていれば、責任役員は3期12年勤められた方に、門徒総代は5期20年勤められた方に院号法名が授与されます。(別途申請が必要です。)



# 第15回北海道教区 仏教壮年研修大会

テーマ 「医療現場で求められる仏教」

期 日 2018年5月12日(土) 12:30(受付) ~  
13日(日) 11:30(散会)

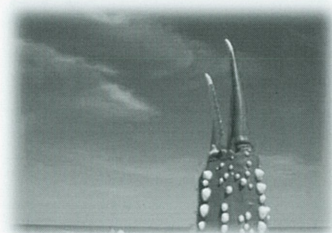
ご講師 田畑 正久氏 [ 医学博士、  
龍谷大学大学院実践真宗学研究科教授 ]

プロフィール：1949（昭和24）年、大分県に生まれる。医学博士、  
龍谷大学大学院実践真宗学研究科教授。「西本願寺 医師の会」発起人。現在  
佐藤第二病院（大分県宇佐市）院長。日本外科学会専門医、指導医を歴任。  
2009年4月龍谷大学大学院教授に就任。「医療と仏教の協力関係」構築に  
取り組んでいる。 著書多数。



会 場 ホテルオホーツクパレス 紋別市幸町5丁目1-35  
電話 0158-26-3600  
対象者 北海道教区仏教壮年会連盟会員、単位結成をめざす門徒・僧侶

オホーツクラベンダー畑



カニの爪のオブジェ

主催：北海道教区仏教壮年会連盟  
主管：北海道教区北見西組

## ▼北海道誌

## 【2017(平成29)年度北海道教区報告】

- 4月3日 仏婦総連盟総会  
11日 第7期伝灯奉告法要(～18日)  
13日 ビハーラ理事会  
18日 青僧協常任委員会  
19日 真宗教団連合拡大委員会  
20日 布教団三役会・役員会  
25日 第8期伝灯奉告法要(～5月2日)  
若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行委員会  
27日 子ども・若者ご縁づくりマネージャー会議  
29日 仏壮連盟総会・研修会
- 5月2日 常備会 / 組長会  
8日 少年連盟理事会  
9日 第9期伝灯奉告法要(～16日)  
10日 連研推進者協議会  
12日 門徒総代会常任幹事会  
13日 仏教青年会連盟総会  
17日 第50回少年連盟指導者研修会  
19日 保育連盟理事会・総会  
仏教婦人会連盟総会・研修会  
寺族婦人会連盟総会・研修会  
重点プロジェクト実行部会  
21日 スカウトクラブ総会  
22日 勤式練習所運営委員会  
24日 第10期伝灯奉告法要(～30日)  
31日 真宗教団連合研修会
- 6月1日 伝灯奉告法要終了式  
ビハーラ評議員会・ビハーラ講座  
3日 ほよーん相談会(～4日)  
4日 若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行委員会  
5日 第4回若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム  
～み教えから学ぶ(～19日)  
6日 第1連区仏教壮年連絡協議会(長野教区)  
14日 教区実践委 部長会  
仏青協議会  
17日 得度習礼講習会(～18日)  
第1連区仏青連絡協議会(長野教区)  
20日 矯正管区研修大会(網走～21日)  
教区実践委 第1回門信徒教化部会  
22日 第1連区少年連盟連絡協議会(国府教区～23日)  
24日 スカウトキャンポリー実行部会  
27日 第31回全道仏教婦人大会(滝川市)  
30日 保養受入のための研修会(小樽別院)
- 7月3日 教区実践委 第1回寺院活動支援部会  
4日 常備会  
6日 教区実践委 第1回僧侶研修部会  
11日 Aブロック門徒総代総会研修会(札幌～12日)  
12日 Aブロック門徒総代総会研修会(声別～12日)  
18日 日高組連研履修者研修会  
19日 常備会  
20日 教区実践委 第1回常任委員会  
21日 教区常例線協議会  
21日 夏期保養事業(～27日)  
24日 連研推進協議会  
25日 第一連区教区会議長・教務所長連絡協議会  
26日 法式研修会(～27日)  
27日 臨時教区会  
28日 教区本派スカウトキャンポリー(室蘭市～30日)
- 8月21日 若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行委員会  
子ども・若者ご縁づくりマネージャー会議  
24日 教区実践委 第1回社会部会  
28日 第一連区布教使研修会(～29日)
- 9月1日 総局巡回・公聴会  
山階照雄総務を励ます会(札幌市)  
2日 全国仏教壮年大会(仙台市)  
18日 ビハーラ講座(北見市)  
25日 教区実践委 第2回常任委員会  
27日 第一連区布教使研修会(築地本願寺～28日)  
教区実践委 第2回門信徒教化部会
- 28日 Cブロック門徒総代研修会(十勝組担当～29日)
- 10月4日 利尻島離島布教(～6日)  
5日 重点プロジェクト実行部会  
6日 仏婦連盟 常任委員会  
7日 仏青連盟 役員会  
10日 矯正教化連盟 総会・研修会  
12日 第2回勤式練習所運営委員会  
17日 僧侶研修部会教学部門巡回講師会議  
18日 寺族婦人会連盟三役会  
26日 若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会  
30日 Bブロック僧侶研修会(宗谷組担当～31日)
- 11月8日 教区連研履修者・門徒推進員研修会  
15日 教区布教大会(別海町)  
18日 保養相談会(郡山市～19日)  
原発被害現地学習会  
20日 教区実践委 第2回寺院活動支援部会  
25日 教区真宗青年の集い(帯広別院～26日)  
27日 親鸞聖人讃仰の集い(～28日)  
28日 青年僧侶協議会会議  
29日 少年連盟理事会  
30日 子ども・若者ご縁づくりサポーター研修会  
若婦人・若寺族婦人研修会
- 12月3日 Cブロック僧侶研修会(釧路組担当～4日)  
5日 保育連盟理事会・研修委員会  
8日 御堂演奏会  
9日 得度習礼講習会(～10日)  
13日 矯正管区理事会  
18日 第4回若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム  
～み教えから学ぶ(～19日)  
26日 組長会 / 災害対策委員会  
27日 実践運動 第3回常任委員会
- 1月10日 寺院子弟交流会(本願寺小樽別院～11日)  
17日 教区連研のための研究会  
22日 北海道真宗教団連合事務局会議  
25日 教区実践委 第2回社会部会  
26日 北海道真宗教団連合理事・評議員会  
29日 若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会  
第2回法式研修会
- 2月3日 スカウトクラブ役員会  
5日 青年僧侶協議会会議  
9日 布教団実演布教研修会  
布教団役員会  
13日 教区実践委第3回寺院活動支援部会  
16日 青年布教使研修会(～17日)  
19日 教区実践委第3回門信徒教化部会  
青年布教使研修会  
22日 得度習礼講習会(～23日)  
重点プロジェクト実行部会  
26日 温泉説法の集い(定山溪温泉～27日)  
27日 常例線協議会  
28日 実践運動 第4回常任委員会
- 3月3日 仏青連盟役員会  
5日 宗教者懇談会  
6日 常備会  
7日 空知北組移動教務所  
8日 教区実践委 第2回僧侶研修部会  
巡回講師合同会議  
9日 子ども・若者ご縁づくりマネージャー会議  
10日 「いのちの終わりをみつめ合う」公開シンポジウム  
ビハーラ理事会  
12日 教区仏教婦人会常任委員会  
重点プロジェクト正副部長会  
14日 若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会  
15日 門徒総代会常任幹事会・研修会  
17日 仏教壮年会役員会  
22日 教学伝道奨励委員会  
23日 定期教区会  
27日 教区少年リーダー研修会(～28日)  
29日 教区実践委 常任委員会・全体会  
30日 組長会

北海道教区常例布教日程(予定)

	4月	5月	6月	7月
札幌別院	(熊本教区・益東組・教尊寺) 大道 修	(北豊教区・京仲組・両徳寺) 舟川 智也	(大阪教区・天野北組・明教寺) 不死川 昌史	(備後教区・世羅組・正満寺) 島津 慧
別院	(滋賀教区・長浜組・浄願寺) 夏木 一丸	(四州教区・宇和島組・圓立寺) 足利 礼子	(熊本教区・球磨組・聚教寺) 恒松 見照	(東京教区・群馬組・蓮照寺) 松岡 満雄
北見西	(安芸教区・山県太田組・安養寺) 小林 邦頭	(山口教区・岩国組・教法寺) 筑波 敬道	(北豊教区・京仲組・円成寺) 原 英太郎	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 龍誠
北見東	(奈良組・広瀬組・善巧寺) 澄川 緑乃	(北海道教区・札幌組・覚英寺) 黒田 顕城	(北豊教区・京仲組・円成寺) 原 英太郎	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 龍誠
釧根	(安芸教区・沼田組・法隆寺) 森岡 恵隆	(北海道教区・留萌組・西暁寺) 藤 順生(11日・25日)	(熊本教区・託麻組・良覚寺) 吉村 隆真	(北海道教区・根室組・正光寺) 鈴木 将弘
十勝II	(北海道教区・空知北組・法忍寺) 渡辺 雅俊	(北海道教区・留萌組・西暁寺) 佐藤 暁慎(7日・10日)	(熊本教区・託麻組・良覚寺) 吉村 隆真	(北海道教区・根室組・正光寺) 鈴木 将弘
十勝I	(北海道教区・留萌組・善勝寺) 吉川 秀洋	(山陰教区・鹿足組・妙壽寺) 村上 元	(四州教区・徳島西組・安楽寺) 千葉 恒乗	(北豊教区・京仲組・正山寺) 生土 昌行
日高				
胆振	(北海道教区・留萌組・信楽寺) 吉川 昭恵	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 龍誠	(北海道教区・空知北組・龍泉寺) 寺垣 信晃	(北海道教区・後志組・無量寿寺) 朝山 明彦
上川北	(北海道教区・十勝組・妙法寺) 石田 智秀			
上川南3	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 龍誠			
上川南2	(北海道教区・空知南組・誓報寺) 天野 廣海	(長崎教区・佐世保組・明照寺) 末永 宗平	(北海道教区・空知南組・報恩寺) 辰田 真弥	(山陰教区・出雲組・覚専寺) 佐々木 俊教
上川南1	(山口教区・坊府組・万巧寺) 石丸 涼道			
空知北	(北海道教区・根室組・正光寺) 鈴木 将弘			
空知南	(北海道教区・留萌組・西暁寺) 藤 法順	(北海道教区・根室組・正光寺) 鈴木 将弘	(北海道教区・後志組・無量寿寺) 黒田 顕城	(熊本教区・託麻組・良覚寺) 吉村 隆真
後志	(北海道教区・空知北組・法忍寺) 渡辺 雅俊	(北海道教区・空知南組・報恩寺) 辰田 真弥	(四州教区・飯山南組・源正寺) 片山 英道	(山陰教区・千須賀組・永照寺) 吉川 恭
函館	(大阪教区・石川南組・専光寺) 多田 大樹	(滋賀教区・神崎組・稱名寺) 田中 諳康	(北海道教区・留萌組・信楽寺) 吉川 昭恵	(北海道教区・札幌組・覚英寺) 黒田 顕城
札幌II	(大阪教区・西淀川組・養善寺) 安徳 剛典	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 春龍	(東京教区・茨城東組・清心寺) 増田 廣樹	(四州教区・徳島西組・安楽寺) 千葉 恒乗
札幌I	(東京教区・静岡東組・寶専寺) 遠山 泰範	(北海道教区・空知北組・龍泉寺) 寺垣 信晃	(北海道教区・函館組・宣法寺) 渡邊 龍慶	(北海道教区・留萌組・西暁寺) 藤 法順

※変更になる場合がございますのでご了承くださいませ。

敬称略